

子どもとともに学ぶ 同和教育

同和問題
シリーズ

同和教育推進員として

～ 明德地区同和教育推進協議会（明德同推協）～

297

① 私たち同和教育推進員は



各地区同推協会長とともに同和教育推進の企画、運営にあたり、また同和問題についての理解、認識を深めるために各種研修会に積極的に参加しています。

② 児童からの聞き取り

第7回明德人権まつりを前にして、小学校5年生と同和教育推進員の話し合いが行われました。内容は、明德地域の人たちは、同和問題をどのように考えているか どのような活動が行われているか 同和教育推進員はどのような仕事をしているのか どんな点に問題を感じているのかなどでした。

いろいろ話したあと、Aくんに「同和教育推進員にどうしてなられましたか」と尋ねられました。私は「会長に頼まれて、はじめは仕事が忙しいのでと断ったのだけど、しなくてはいけないと思って推進員になりました」と答えました。Aくんは「熱心に取り組んでおられてすごいなと思います。」とほめてくれました。

私は、「同和教育はしかたなくやっているとか、他からやらされているというような考えではなく、我がことと感じて取り組んでいます。このようになれたのは、私がかつて教師になった頃、その学校に登校できなくなっていった被差別部落の子がいました。その子に関わって同和教育の大切さを感じ、取り組んできました。だから今推進員として仕事をしていることをうれしく思います。」と話しました。

③ 第7回・明德人権まつり



12月1日、明德小学校の体育館で児童や保護者、地区住民など多くのみなさんの参加により盛大に行われました。5年生の発表の中では、推進員の活動について話す場もありました。6年生は、推進員やお母さんたちと一緒に「教科書を持って学校へ行かせたい 教科書無償運動」の劇や、「身元調査」の寸劇にチャレンジ。推進員による人権の詩の朗読もありました。子どもたちと一緒に活動する場が、だんだん増えてきています。

人権まつりの終わったあと、子どもたちから「ひとりひとりの人権を守るようにしたい」「幸せの花を咲かせているクラスにしたい」など書いた手紙をいただいてとてもうれしかったです。

④ 私の町内では



小地域座談会で「子どもたちと語ろう同和問題」のテーマで、子どもたちに学校で学習したことや人権を守るとはどんなことかなどを発表してもらい、町内のみんなで話し合う会が持たれました。会は、「話を聞く」「ビデオを視聴する」から「自分が考え発表する」を目標に推進員や協力員とともに進めています。ある人が「学ぶことが力となり、活動のエネルギーを与えてくれる」と言っていました。常に差別を見抜く力をつけ、自分のこととして考える心を持った人間になる努力をすることが大切だと思っています。